

2018年12月

## 家族が子供に与える影響についての考察

経営学部 経営学科 新井ゼミ  
B5R11107 田中貴大

### 【卒業論文概要】

現在、日本では校内暴力の増加が問題になっている。最近よくニュースなどでいじめの問題や先生に対する暴力の問題を耳にするようになった。文部科学省が示しているデータによると平成28年度に起きた小学校における校内暴力の発生件数は前年度の平成27年度に発生した校内暴力発生件数よりも5,769件増え、割合にすると33.8%もの増加を見せている。中学校や高校では発生件数の数は減少傾向にあるものの校内暴力の中で生徒間暴力が6割を占めるなど問題になっている。このような問題の背景には何があるのだろうか。私はこのような問題の背景には親や大人と子供との家族間・地域間コミュニケーションの減少という問題が潜んでいるのではないかと考えた。親が子供と適切な距離を保つことができず、両親ともに忙しさのあまり子供にきちんとした教育やしつけを行うことができていないのではないかと考えた。私はこの問題に対してどうすれば解決することができるのかを考え、研究に取り組んだ。

本論文の目的は、このような親と適切な距離を保てず、良好なコミュニケーションを取ることが出来ず、両親ともに忙しさのあまりきちんとした教育やしつけを行うことができていない家庭に対してどのようにすればそれらの問題を解決することができるのかを明らかにすることである。

今日の日本での家族形態は、出生率の低下に加えて、父親か母親どちらか片方の親しかいない家族の割合が年々増加している。これらは親との良好なコミュニケーションという面において大きな問題であると考えられる。さらに共働きの世帯も増加傾向にある中から見えてくるのは、子供が学校から家に帰ってきても誰も家にいないという状況である。また、昔はあった地域の人とのつながりも、近年では希薄になってきており、ますます子供は孤立を深める事態に陥ってしまうのではないだろうか。

これらの現状を踏まえ子供と大人とのつながりを作ることが重要であると考え、親が帰宅するまでほかの大人と交流しながら、子供たちが遊ぶことのできる施設を増やすことや、親子で参加できるイベントを増やすことなどの解決策を提示した。